

令和4年度
令和4年度第1回 北広島市旧島松駅通所整備検討委員会 議事録

日 時 令和4年9月29日(木) 午後4時～午後5時30分

場 所 北広島市広葉交流センター2階 研修室

◎出席者

●委員

角幸博、平井卓郎、森朋子、圓谷昂史、細川健裕、鹿内洋一

●オブザーバー

北広島市企画財政部企画課長： 佐藤直人

北広島市建設部都市整備課長： 藤本 正志

北広島市建設部建築課長： 吉岡 亮

●事務局

北広島市教育委員会教育長：吉田孝志、教育部長：吉田智樹

エコミュージアムセンター長：吉田智樹、参事：丸毛直樹、主査：青木潤

主査(学芸員)：畠誠、主任(任付き学芸員)：黒田弘子

●委託業者

コンサルタント会社：北電総合設計株式会社 宮越、大日向、森田

委嘱状交付

教育長より各委員へ委嘱状を交付した。

1 開 会

2 北広島市教育委員会教育長挨拶

教育長より挨拶。

3 委員等紹介

各委員、事務局より自己紹介。

4 検討委員会設置条例について(資料2)

事務局より資料2に沿って説明。

5 委員長、副委員長の選出

北広島市旧島松駅通所整備検討委員会設置条例に基づき次のとおり選出。

委員長：角 幸博、副委員長：藤井 浩。

6 解説

- (1) 旧島松駅通所保存活用計画の概要について
事務局より概要説明。
- (2) 旧島松駅通所整備基本計画の概要について
事務局より概要説明。

7 議事

- (1) 旧島松駅通所大規模改修に係る基本設計（案）について
○旧島松駅通所主屋耐震補強、保存修理基本設計について

事務局 北電総合設計 担当より各資料の説明。

令和3年度 史跡旧島松駅通所耐震診断業務報告（抜粋） 資料1について

事務局 北電総合設計 担当より説明。

P10 では、どの様なレベルの耐震をもたせた建物にするのか条件設定をしています。P17 耐震・耐風性能評価についてですが、現状の建物が、500年に一度くるような大きな地震（震度7クラス）の想定で建物が耐え得ることができるかどうかという評価です。現状では、倒壊する可能性が高いので、どのように補強するとよいのかということを実験で実施した。結果としてはP25・P26を補強案としています。P25 赤色壁の箇所を補強することで耐震性の耐力を上げることができる計算を昨年度検討しました。P26 建物の耐震性を上げるために、壁をどのように補強するとよいのかというと、現状の壁の中に耐震性のある合板を入れることによって耐震性を上げて倒壊しないという補強案を昨年度耐震診断の業務報告をしました。今年度も引き続き継続して耐震補強・保存修理・基本設計の業務を行い概要をご説明しまして、今後の検討内容にしていきたいと思います。

旧島松駅通所主屋耐震補強・保存修理基本設計（案）について

事務局 北電総合設計 担当より説明。

P2.1 - (3) 地盤調査結果について

今年度詳細な地盤調査を行ったところ、岩盤のような強固な地層は確認されていないが深さ30m付近まで粘土層が続き、木造家屋平屋の建物であれば十分に耐力を確保できる地盤であることが確認できた。粘土層ではあるが、木造の建物に十分な耐力を確保できているので影響はない。今年度は、耐震診断の構造解析に反映して再度補強案を検討したい。

P6.3 駅通所主屋内部の展示について・P9.4 防災設備について

事務局 北電総合設計 担当より説明。

旧島松駅通所主屋内部 展示リスト 別紙1

史跡旧島松駅通所整備基本計画（抜粋） 別紙2

事務局 検討委員の皆様にご検討いただきたい。展示・導線の見直しをすることで耐震補強に反映させることができる。

委員長

みなさんからご質問等は、ございませんでしょうか。

P6. 3内部の展示について、もっとこうしたら良いのではないかというご意見を委員の皆様お願いします。

【展示について】

委員

- ・ ガラスケースに入った賞状等は年代別とはなっていない。ガイドが説明しやすい順になっているのか。

事務局

- ・ 管理人がガイドの際、説明をしやすい順に展示をしている。

委員

- ・ 資料の劣化が見られ、高い所は視認性が悪いため、今後は低いケース等での展示を考えてはどうか。

事務局

- ・ 直近の大きな地震（東日本大震災・胆振東部地震）を2回経験したが、現在の固定具で倒れることはなかった。今後は、より建物の耐震性を上げるために、背の高い展示ケースから低い展示ケースを考えている。
- ・ 本駅通所では可能な限り本物を展示していきたいと考えており、史料（賞状）の劣化についても毎年予算をつけて順次修復しながら展示していきたいと考えている。
- ・ その中でもひどく劣化が進んでいる史料（賞状）については、今後レプリカを検討したい。

委員

- ・ 展示について議論するのであれば、本駅通所の本質的な価値を踏まえた上で議論する必要があると思われる。本委員会では、整備基本計画の5章の7のみを資料として提示して頂いたが、次回からは、本質的な価値について分かる資料も提示頂きたい。
- ・ 前年度の検討委員会では、建物の増築の痕跡が残る部分についても一部天井を外して見えるようにしてはどうかとの意見も出ていたと思うが、それらも展示計画に反映されて

いくのか。

委員長

- ・ 建物の本質的な価値として、増築の痕跡を見せるのは良いと思うが、天井を外すというのは、前年度に文化庁の調査官が現地視察の際に確認したが、そのような対応は難しいようだ。
- ・ 資料の中では、デジタル技術の導入については、導入エリアのみと考えているようだが、史跡全体にデジタル技術を導入して検討しても良いのではないか。
- ・ 森委員からの意見にあったように小屋裏の増築の痕跡についても、視覚的に見せることも可能なのではないか。

委員

- ・ 展示資料については、設置する高さについて、どのような年代の方に見せるのかについても考えると良いと思われる。

委員

- ・ 本駅通所の本質的な価値を踏まえた上で、駅通所の主屋だけでなく、駅通所の史跡全体についても展示することで、本駅通所の価値について示すことができると考える。

委員長

- ・ 駅通所には、火鉢が置かれていたと思われるが、本駅通所がどのような使われ方をしていたのかが分かるような展示も過去の資料等を根拠として展示することも考えてはどうか。
- ・ ガイドの方々も日常的に観覧者と接していると思われることから、様々な意見を持たれていると思われるので、ガイドの皆さんからの意見を聞くと良いのではないか。
- ・ QRコードを活用する展示解説の方法なども考えられる。

委員

- ・ 本駅通所は、駅通所であり、中山久蔵宅であり、行在所であり、クラークも訪れた場所であるというポテンシャルの高い史跡だと考える。

事務局

- ・ 文化庁の調査官も前年度、本駅通所を訪れた際に、駅通所だけでなく付加価値も多い史跡であるため、本質的な価値をどのように展示していくのか、どのように活用していくのかをよく考える必要があると指導を受けた。当市としては、普遍性があり、安価で、時代の変化に左右されない展示にしていきたいと考えている。

- ・ 本駅通所には、ガイドもおり詳細な説明を行っていることから、ガイドの説明と展示の相乗効果で本駅通所の魅力を高めて行けるのではと考えている。

委員

- ・ 展示と耐震補強は連動させて考えることが必要である。先程、小屋裏に残る増築の痕跡を見せることについて意見があったが、小屋裏部分にも補強の部材を設けることになると思われるため、補強前にその部分を記録し、それを展示するか、その部分を避けて補強を行うか等の検討も必要になる。

委員

- ・ 展示とガイドの相乗効果で観覧者の理解が深まり、そのような方法が良いというのは賛同する。
- ・ しかし、本駅通所では中山久蔵に関する資料が主になっており、建物の変遷などの説明に用いる資料が乏しいと思われる。
- ・ 本質的な価値として、本駅通所が、なぜこの場所に建てられたのかという場所の特性が重要な要素だと思われる。
- ・ ガイドの方がそれを説明できる資料が乏しいと思われる。
- ・ そのように足りない部分をデジタル技術で補うことや展示に追加することを考えていくと良いのではないか。

委員長

- ・ 展示についていくつかのストーリーを設定し、観覧者の要望にあわせてストーリーごとに展示を見せる方法も考えられる。

【防災について】

委員

- ・ 現状では火災報知設備は設置されているとの事ですが、休館日や夜間など無人の場合、火災を感知した後は、どのような警報システムになっているのか教えて頂きたい。

事務局

- ・ 現状では、火災を感知した場合、本市職員の電話や消防へ自動で通報されるシステムとなっている。

委員長

- ・ 火災発生時の通報系統など委員会で提示して頂けるようお願いする。

- ・ 資料の中で、屋外に炎感知器の設置を計画されているようだが、設置については意匠や景観に配慮して設置するよう検討して頂きたい。

【その他】

委員長

- ・ この場ではなくても、何かご意見があれば、事務局へ連絡を頂きたい。